



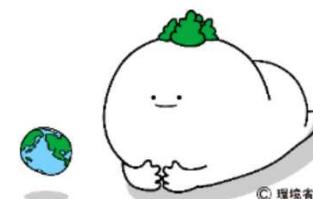
令和5年度 自然共生サイト認定について

令和6年3月

自然共生サイト
認定



30by30



令和5年度 184 か所を認定

- 令和5年度前期
122か所（うち令和4年度試行分52か所） 10月25日認定
- 令和5年度後期
62か所（うち令和4年度試行分3か所） 3月18日認定

認定サイト一覧は参考資料1のとおり。

1. 自然共生サイトの認定に係るご報告 令和5年度の自然共生サイトの認定例（森林）



東急リゾートタウン蓼科
(長野県茅野市・東急不動産株式会社)

後期

- ・ 森林/草原/沢等に希少種含む多様な動植物が確認
- ・ ゲレンデは毎年草刈りされ草原性の動植物が確認。



つなぐ森
(東京都奥多摩町・野村不動産ホールディングス株式会社)

前期

- ・ 木材の地産地消と森林の機能回復を目指し、
令和4年から町有林における森林管理を実施



奥びわ湖・山門水源の森
(滋賀県長浜市・山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会)

前期

- ・ 地域の団体が20年以上保全してきた里山・湿原
- ・ 自治体、地元企業の支援も得ながら活動を継続



田島山業×みんなの森プロジェクト
(大分県日田市・田島山業株式会社)

前期

- ・ 先祖代々継承している森林施業地で、CO2吸収、
生物多様性保全、地域貢献等を目的に管理を実施

1. 自然共生サイトの認定に係るご報告 令和5年度の自然共生サイトの認定例（里地里山）



- ・ 落葉広葉樹林や湿地の保全再生、耕作放棄地におけるビオトープの創出、侵略的外来生物の防除等



- ・ 里地里山の森林整備、棚田の再生等を実施
- ・ ゲンゴロウ、サシバ等の希少種も確認



- ・ 周辺が宅地化する中、土地所有者・市・住民等が連携し、里山環境・文化を保全、環境教育の場に



- ・ 多摩丘陵の谷戸地形を都市公園として保全
- ・ 地域住民主体で里山を保全し、住民の憩いの場に

1. 自然共生サイトの認定に係るご報告 令和5年度の自然共生サイトの認定例（都市の緑地）



- ・ 管理方針を策定し、データ蓄積、保全策検討等を継続。
- ・ 461種の在来植物の他、多くの希少種を確認。



- ・ 土地の成り立ち等に関する調査を踏まえ、地域性種苗、在来種を使用した「本物の森」を創出



- ・ 工場敷地（約53 ha）の約80%を占める緑地
- ・ 自然林・茶畑等を維持し、地域イベントも実施



- ・ 工場敷地内の湿地を保全し、55種のトンボを確認
- ・ 従業員、家族によるモニタリング・観察会を実施

1. 自然共生サイトの認定に係るご報告 令和5年度の自然共生サイトの認定例（沿岸域）



関西国際空港島 人工護岸 藻場サイト (大阪府泉佐野市及び泉南市・関西エアポート株式会社)



前期

- ・ 空港島護岸に緩傾斜石積みを採用し、**藻場を創出**
- ・ **66種の海藻類、28種の魚介類**を確認

吉崎海岸自然共生サイト (三重県四日市市・四日市市/楠地区まちづくり検討委員会/NPO法人四日市ウミガメ保存会)



前期

- ・ **アカウミガメの産卵場**であり、**希少動植物**も確認
- ・ **地域住民を中心に保全され、参加者・企業は増加**

海岸生物の王国“相生湾” (兵庫県・兵庫県相生市、相生湾自然再生学習会議、 あいおいカニカニブラザーズ)



後期

- ・ **砂浜や干潟等に多種多様な生物**が生息
- ・ **兵庫県、市民団体等が協働**で保全活動を実施

山川の海のゆりかご (鹿児島県・山川町漁業協同組合)



後期

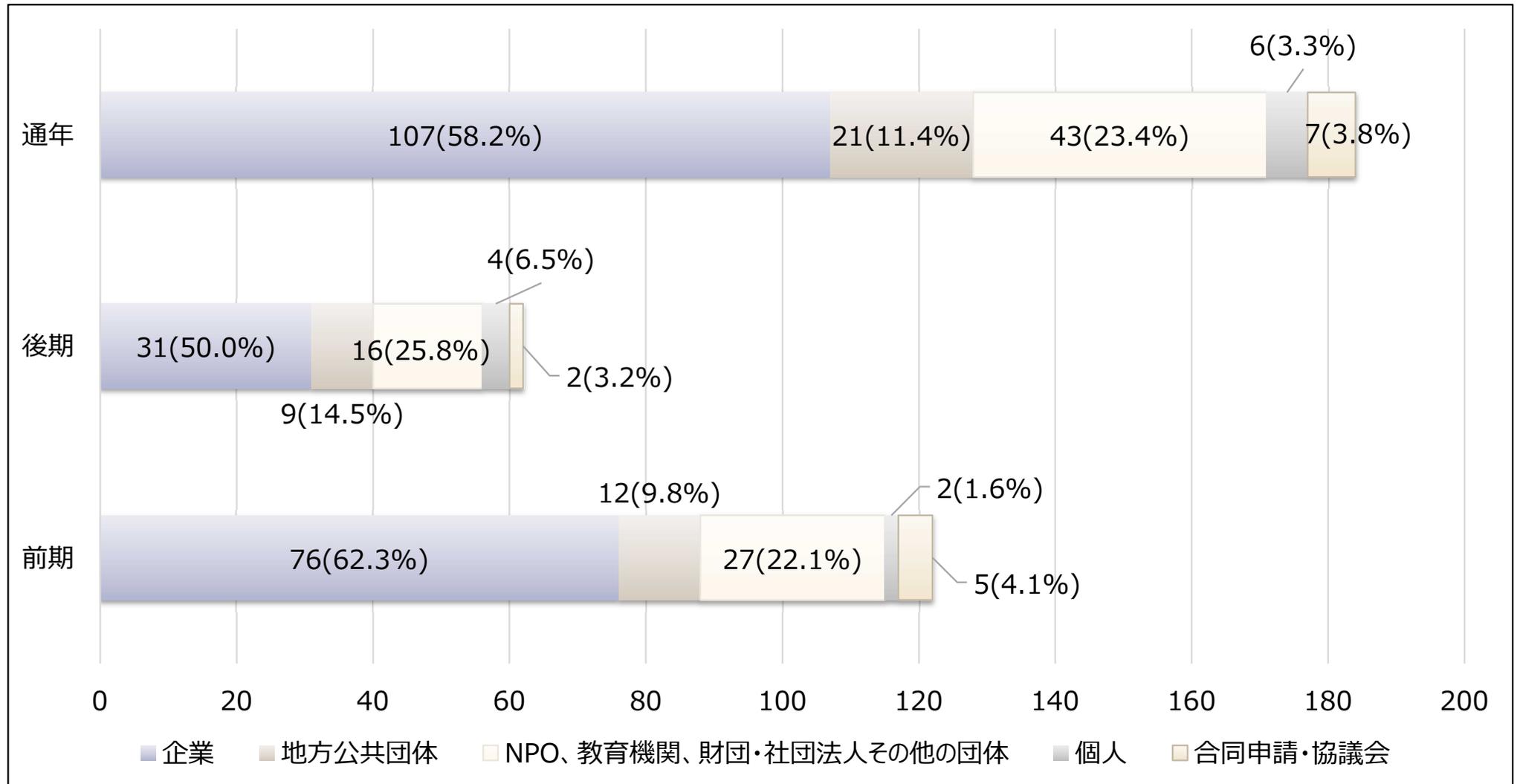
- ・ **地元漁協者が中心**となり、**藻場の生態系を再生**。
- ・ **漁業と気候変動対策、生物多様性保全の統合的向上**

1. 自然共生サイトの認定に係るご報告

自然共生サイトの分析 (1) 申請主体区分別



申請主体区分別の申請数

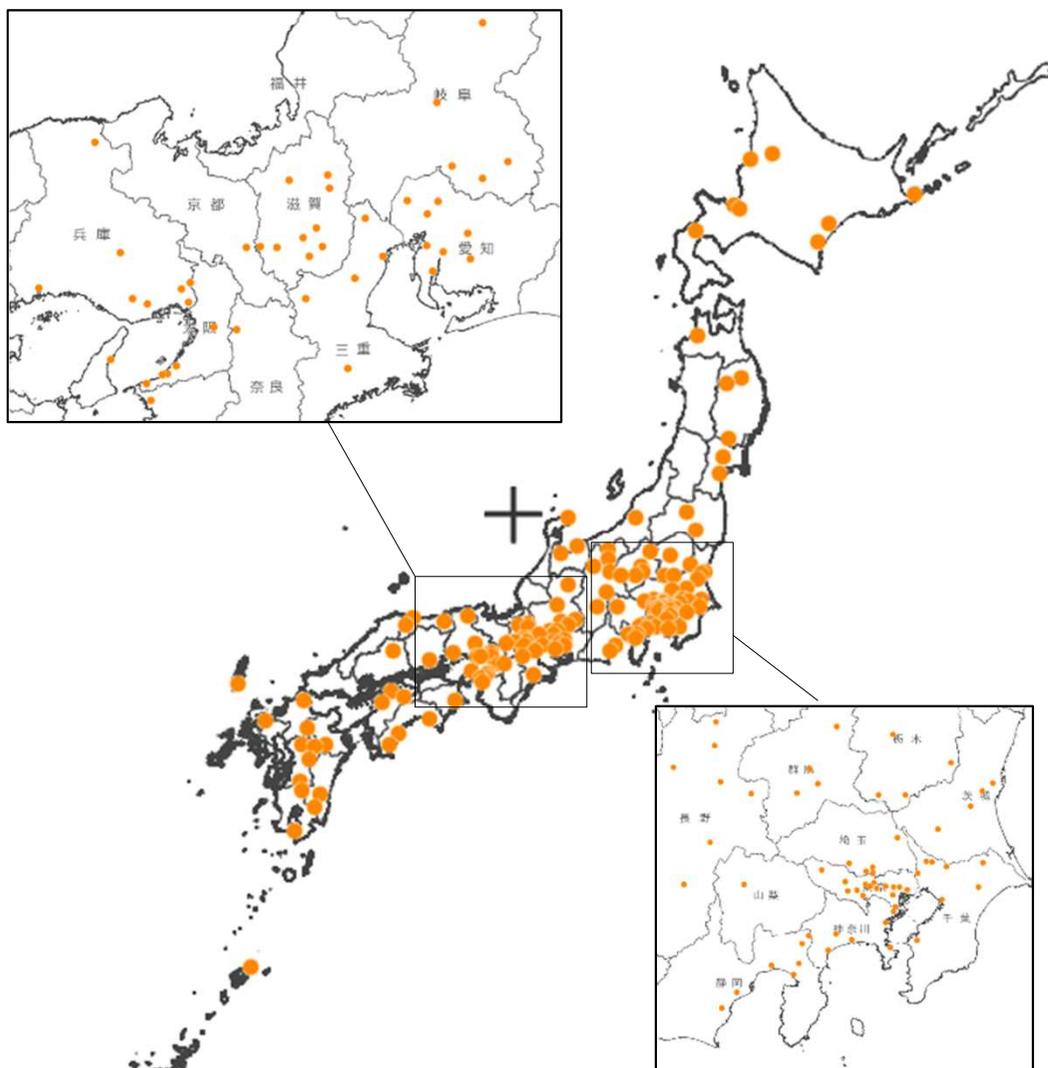


1. 自然共生サイトの認定に係るご報告

自然共生サイトの分析 (2) 都道府県別



自然共生サイトの所在地



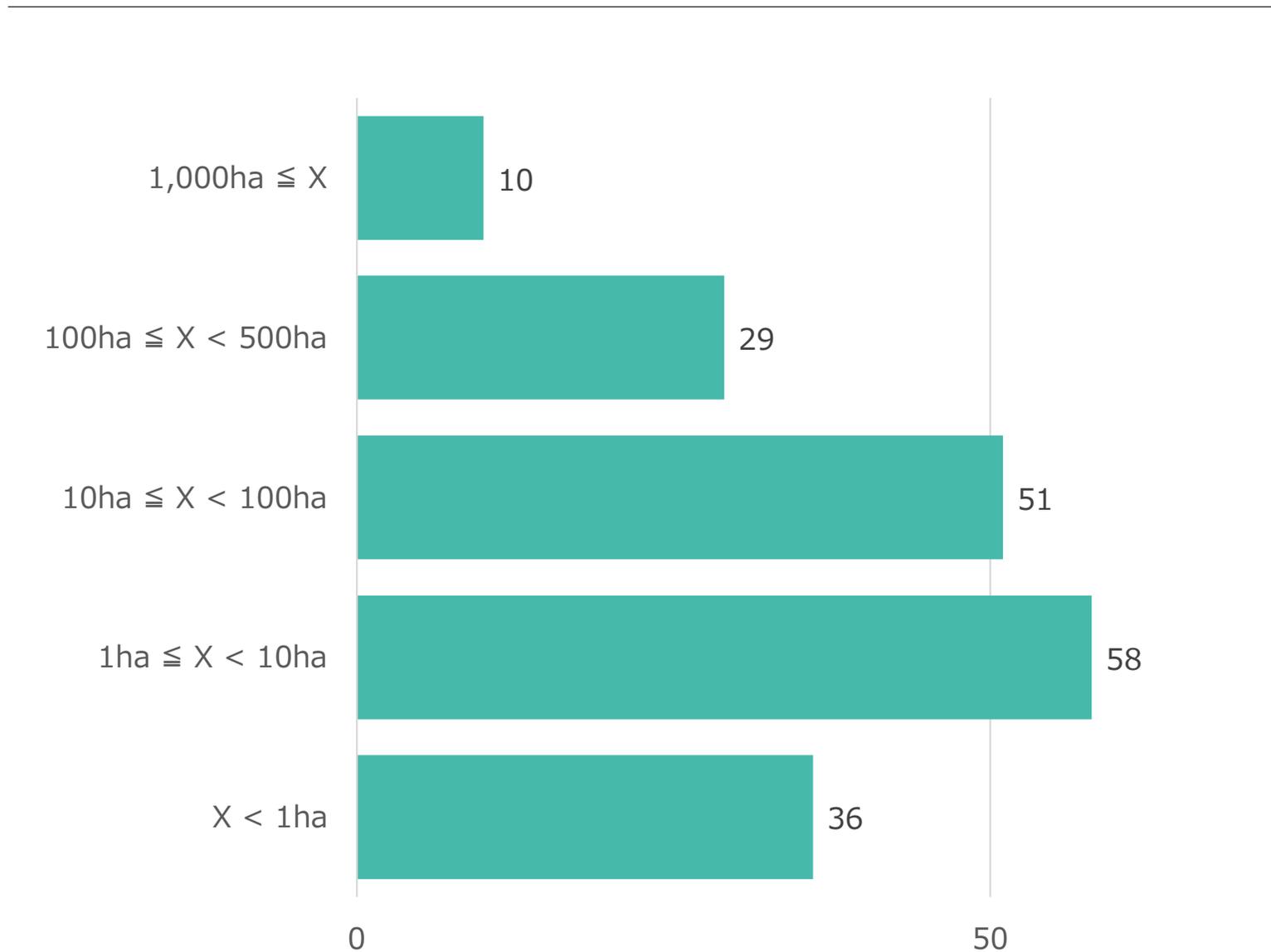
* 地図は地理院地図を使用して作成
 * プロットの位置はサイト所在市区町村の役所の位置

都道府県	前期	後期	通年	都道府県	前期	後期	通年
北海道	7	3	10	滋賀県	7	3	10
青森県	0	1	1	京都府	1	1	2
岩手県	1	2	3	大阪府	4	2	6
宮城県	1	2	3	兵庫県	8	4	12
秋田県	0	0	0	奈良県	1	0	1
山形県	0	0	0	和歌山県	1	0	1
福島県	0	2	2	鳥取県	2	1	3
茨城県	5	2	7	島根県	0	0	0
栃木県	3	2	5	岡山県	0	1	1
群馬県	2	2	4	広島県	1	0	1
埼玉県	4	1	5	山口県	0	0	0
千葉県	6	2	8	徳島県	1	0	1
東京都	16	5	21	香川県	0	0	0
神奈川県	5	3	8	愛媛県	2	2	4
新潟県	0	1	1	高知県	1	2	3
富山県	2	0	2	福岡県	1	0	1
石川県	1	0	1	佐賀県	0	1	1
福井県	0	0	0	長崎県	1	0	1
山梨県	1	0	1	熊本県	4	1	5
長野県	2	4	6	大分県	2	0	2
岐阜県	3	2	5	宮崎県	2	1	3
静岡県	7	2	9	鹿児島県	2	1	3
愛知県	11	5	16	沖縄県	0	0	0
三重県	4	1	5	合計	122	62	184

1. 自然共生サイトの認定に係るご報告 自然共生サイトの分析 (3) 面積別



自然共生サイトの数 (面積別)

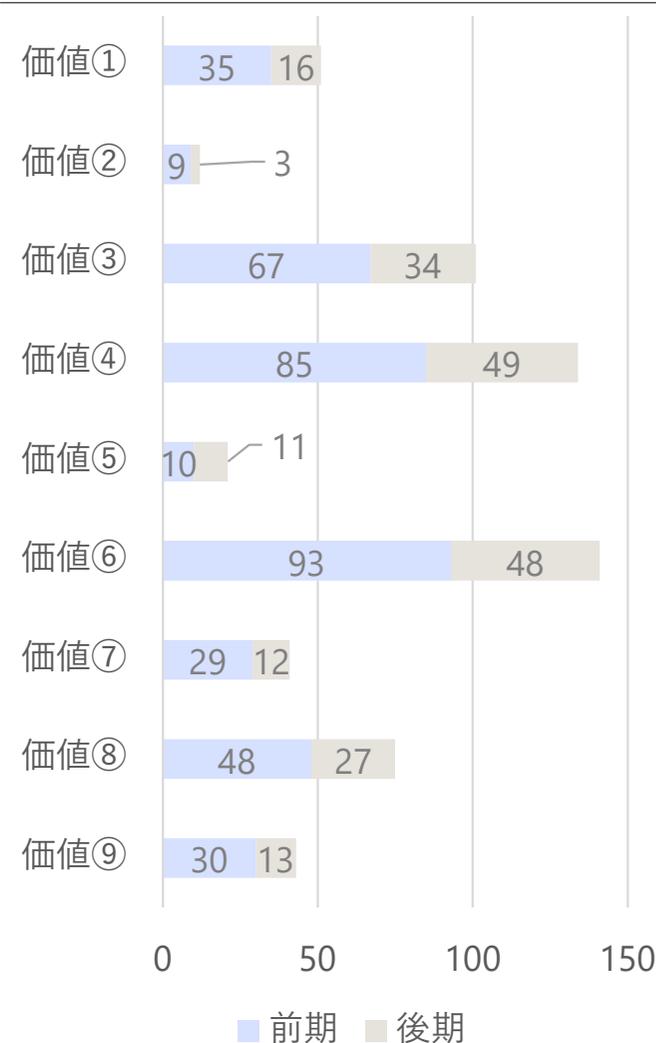


1. 自然共生サイトの認定に係るご報告

自然共生サイトの分析 (4) 認定価値別

認定基準	
①	公的機関によって、 生物多様性保全上の重要性が既に認められている場 としての価値
②	原生的な自然生態系 が存する場としての価値
③	里地里山 といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値
④	生態系サービス提供の場 であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値 <生態系サービスの例> ・水源涵養（調整） ・炭素固定（調整） ・防災減災（調整） ・景観、観光、教育（文化的） ・都市内の緑地といった癒やし・レクリエーション（文化的） ・食料や原材料といった自然資源の利用（供給）
⑤	伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている 自然資源の供給の場 としての価値
⑥	希少な動植物種 が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値
⑦	分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種 が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値
⑧	越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、 動物の生活史にとって重要な場 としての価値
⑨	既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、 緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場 としての価値

自然共生サイトの数（価値別）



<令和6年度「前期」スケジュール（予定）>

- 【申請受付】 令和6年4月中旬から5月中旬まで
- 【事務局予備審査】 令和6年6月～7月頃
- 【有識者審査】 令和6年8月～9月頃
- 【第1期認定】 令和6年10月頃

<令和6年度「後期」スケジュール（予定）>

- 【申請受付】 令和6年9月頃
- 【事務局予備審査】 令和6年10月～11月頃
- 【有識者審査】 令和6年12月～令和7年1月頃
- 【第2期認定】 令和7年3月頃

自然共生サイト認定マークについて

- 自然共生サイト認定を受けると「自然共生サイト認定マーク」の使用が可能。活用状況の主な事例は以下のとおり。



看板への掲示例：サイト名：戸田建設筑波技術研究所 (戸田建設株式会社)



商品への掲示例：サイト名：細尾の棚田、池沼植物群落 (今住悦昌)



冊子への掲示例：サイト名：知多半島グリーンベルト (NPO法人日本エコロジスト支援協会)
<https://ecoreco.net/backnumber/ecorecoaichi-vol-19/>



ノベルティへの掲示例：サイト名：杉並区遅野井川親水施設 (杉並区・遅野井川かっぱの会)

その他、WEBサイトで活用している事例多数

自然共生サイトWEBページの開設



認定サイトを前期・後期・都道府県別から検索。個別サイト概要の閲覧が可能。

認定サイト一覧

自然共生サイトに認定されたサイト一覧を事例とともに紹介しています。
ご覧になりたい期間を下のボタンよりお選びいただくと、各期間内に認定されたサイトの情報を地域ごとにご覧いただけます。

2023年 前期 (122か所) 2023年 後期 (62か所)

下記は通算の認定サイト数 (184か所) です。
※日本地図からの認定サイトへのリンクは、上記のボタンからお願いいたします。

福島



福島建設日影山山林・ボナリ山林

【場所・面積】 耶麻郡猪苗代町、112ha
【申請者】 福島建設株式会社

 詳細はこちら [PDF: 1.1MB]



R5後期【No.09】 サイト名：福島建設日影山山林・ボナリ山林 申請者：福島建設株式会社

生物多様性の価値

価値 (3) 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】
森林の大半が原生自然度7に分類された広葉樹林で、*ミズナギ*・*ミナ*が群集である。広葉樹林は山頂付近は*ア*が優占する自然度の高い森林、その周囲は*ミナ*が優占する二次林 (古い雑木林) である。管理記録のある1942年以降に大きな伐採が行われていない。一部がスキー場として利用されていたが、閉業した70年代以降に森林化。野ウサギやタヌキ等の大型哺乳類やツル科等の植物の生息・生育地になっている。

【主な植生】
サイト内の森林の大半は広葉樹林で、*ミズナギ*・*ミナ*が群集が広く分布している。山頂近くには*ア*が優占する林分、渓谷にはサワグルミ林が成立している。人工林としては、カラマツ林、スギ林、および伐採跡地群落 (若齢林、草地) がある。

【確認された主な動物植物など】

- 動物相
哺乳類：ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*, 成体・幼体)、ニホンカモシカ (*Capreolus capreolus*, 成体) ほか / 鳥類：オオアカゲラ (*Dendrocopos leucotos*, 成体)、アオバト (*Treron sieboldii*, 成体) ほか / 爬虫類：ジムグリ (*Euprepiophis conspicillatus*, 成体) ほか / 両生類：ヤマアカガエル (*Rana ornativentris* Werner, 成体) ほか / 昆虫：ウスバシロチョウ (*Parnassius glacialis*, 成体)、エゾハルゼミ (*Terposia nigricosta*, 成体) ほか
- 植物相
クモキリソウ (*Liparis kumokiri*)、ツチアケビ (*Cyrtosia septentrionalis*)、トウゴクサイシン (*Asarum tohokuense*)、クリンソウ (*Primula japonica*) ほか

このほか、環境省レッドリストや福島県のレッドデータブックに掲載されている希少な鳥類や両生類、植物が生息あるいは生育している。



写真の説明：山頂近くの*ア*が優占する広葉樹林



写真の説明：作業者に現れたニホンカモシカ

環境省広報誌エコジン



環境省広報誌エコジン内に自然共生サイト特集ページを開設。認定サイトを紹介中。



みんなで守る、生物多様性豊かな未来 自然共生サイト ってなんだろう？

記事一覧



2024.02.29
徳本山林
【豊後県林業振興協会】
生物多様性

2024.02.29
O's Garden
(オズガーデン)
【小畑園 運営】
生物多様性

2023.12.27
織田ヶ浜海岸
【株式会社ワイマック】
生物多様性



2023.03.09
つなぐ森
【野村不動産ホールディングス株式会社】
生物多様性



2023.03.09
サンデンフォレスト
【サンデン株式会社】
生物多様性



2023.03.07
八王子市長池公園
【NPOフュージョン長池】
生物多様性



今月のテーマ 八王子市長池公園 [NPOフュージョン長池] 生物多様性



東京都心から西へ約40キロの所に、【里山文化の継承と創造】をテーマに掲げている公園があります。八王子市の東部部に位置する八王子市長池公園は、江戸時代から農業用の池として使われていた長池（ながいけ）などの自然を守るために2000年に築造し、市民から自然共生サイトに認定されました。

約20ヘクタールもの広大な敷地には、野鳥観察の観察塔（つくいげ）や里山の生き物がすみ暮する林、四季の節目の場の芝生広場、体験学習施設の自然館など、見どころがいっぱいあります。また、春にはカタクリやオシロイバナ、夏はヤマユリやアサギソウの花が咲き、秋はリンドウやササユリなど、季節の花を堪能することができます。



リンドウの花を堪能し、アサギソウの花を堪能し、つくいげの観察塔で観察することができます。

公園の場所や遊び方について、八王子市長池公園を運営・運営しているNPOフュージョン長池の

